

## Ⅱ 実 践

〈実践例〉 第1学年 平成30年2月

(高 嶋 裕 也)

### 1. 題材名 学年エンブレムをつくろう (6時間)

### 2. 目 標

1. 自分たちの学年名が表す内容や意味からエンブレムをデザインすることに関心を持ち、造形的視点をもって主体的に表現していこうとする。(美術への関心・意欲・態度)
2. 感性や想像力をはたらかせて、自分たちの特徴や将来像などを基に発想し、形や色彩の意味を考え、学年名にふさわしい表現の構想を練ることができる。(発想・構想の能力)
3. 学年名から発想したイメージを基に、意図に応じた用具の使い方や効果的な彩色方法を身に付け、創意工夫して学年エンブレムとして表現することができる。(創造的な技能)
4. エンブレムの形や色彩などから造形的な美しさ、作者の思いや表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えを大切にしながら味わうことができる。(鑑賞の能力)

### 3. 指導にあたって

#### (1). 生徒観

美術科では、「創造活動の喜びを味わい、造形的視点を持って豊かに自己実現していこうとする生徒」の育成を目指し、特に第1学年の授業では、小学校図画工作科で身に付けた基礎・基本とのつながりを意識しつつ、多様な題材に取り組んできた。

本校では、伝統的にそれぞれの学年で「学年名」を設定している。それは学校生活の様々な場面で活用されており、卒業後も、学年名で呼ばれることがしばしばある。今年度も国語科の学習の一環として、生徒たちから「自分たちの学年を象徴する学年名」を募った。生徒が選んだ熟語の意味や、その意味を基に自分が込めた思いや願いなどを話し合う学年討議を経て、日常的に学年を表す呼称として活用されている。

以上のような現状を踏まえ、自分たちに身近な世界と美術の関わりに目を向けさせ、自己の感覚や思いだけにとどまらない、造形やその効果に対する客観的な見方や捉え方を身に付けさせたい。

#### (2). 教材観

本題材では、「学年に所属する自分たちが共感できる」こと、「構成美の要素を意識する」ことを大切に発想・構想に意識を向けさせたい。そうすることで、「文字としての学年名」から「学年に所属する自分たちを表す学年エンブレム」としてイメージを広げ、形や色彩を工夫していくことができる。また、デザインとしてのよさを追究する上で、いわゆる「構成美の要素」は欠かすことのできないポイントである。形や色の組み立てで生まれる、多くの人が美しいと感じる秩序(要素)を学び、活用し、様々な用具を適切に扱って表現に結び付けることで、洗練された線や形、色彩として効果的に表せることに気付くことができるだろう。自分の思うままにフリーハンドで引いた線だけでなく、構成美の要素を活用して自己のイメージを具体化しながらデザインしていくことで、その効果と美しさなどとの調和について総合的に考えることができるようになることが期待できる。

#### (3). 指導観

##### ①本題材で付けさせたい資質・能力

本題材では、自分たちの学年が将来的に成長していきたい理想の姿や、学年全体を象徴するにふさわしいエンブレムを考案させる。エンブレムを構成する形や色彩を考えることで、自分たちの学年への所属意識を一層高め、自分たちの中学校生活をより美しく

豊かなものにしていこうとする意識を育みたい。そのためにも、イメージできる形や色彩をより吟味し、自分の表現意図をわかりやすく美しく伝達することや、工夫したことが他者にも共感されるような作品を目指していくことが重要だと考える。

## ②留意点

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

本題材で、以下の4点を「大切にしたい4つのポイント」として導入時にしっかりと意識させる。

- ・学年名に込められた「願い」が十分に伝わること
- ・自分の「願い」が色や形から伝わること
- ・自分たちの学年の将来的なヴィジョンが感じられること
- ・多くの人に共感され、受け入れられるものであること

## 4 学習計画（6時間計画）

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
1. エンブレム、シンボルマークのデザインについて学ぶ。 (1)	・資料や作品を鑑賞して構成美の要素について理解し、学年エンブレムのデザインの構想を練り、アイデアスケッチを描いている。 (関・意・態) (鑑)	・自分だけの思いでなく、他者意識を持って構想を練らせるために、留意点の4つのポイントを説明し、構成美の要素を十分に活用して考えていくことを大切にさせる。
2. 10cm×10cmの正方形のスペースを作図し、エンブレムをデザインする。 (4)	★色や形の構成を意識し、用具の特性を結びつけ、自己のイメージを具現化しようと試行錯誤しながら制作に取り組んでいる。 (発・構) (技)	★学年エンブレムとしてのデザインを洗練されたものにしていくために、選んだ形や色の表現にどんなことを象徴させたいのかを考えさせ、振り返りカードに記入させていく。
	・絵の具や色鉛筆などの用具を意図に応じて効果的に使いながら、学年エンブレムを完成させる。 (技)	・より美しく学年エンブレムを仕上げていくために、水の分量や筆使いに注意させ、丁寧に制作を進めさせる。
4. 鑑賞会で制作した学年エンブレムを発表する。 (1 本時)	★学年エンブレムに込められた思いや願いと、形や色彩について発表し、互いの作品を鑑賞して感想としてまとめている。 (鑑)	★それぞれの制作意図と形や色彩の構成をじっくりと味わわせるために、グループ発表の後に、全体で代表者に発表させ、学んだ内容の共有化を図る。

## 5. 本時の学習

### (1). 目標

作者がエンブレムの形や色彩に象徴させた内容についてじっくりと味わい、構成美の要素などの造形的視点を持って感想をまとめることができる。

### (2). 過程

学習活動【学習形態】	目指す生徒の姿	教師の手立て		
1. 作品を台紙に貼り、学年エンブレムの鑑賞の準備をする。 【個】	・エンブレムに象徴した内容等をコメントカードに記入し、作品と共に台紙に貼って鑑賞会の準備をしている。	・エンブレムの形や色に象徴させたイメージを具体的に記述させるために、制作の振り返りシートを活用させる。		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">課題</td> <td>学年エンブレムで表現された形や色を味わおう。</td> </tr> </table>			課題	学年エンブレムで表現された形や色を味わおう。
課題	学年エンブレムで表現された形や色を味わおう。			
2. 制作した学年エンブレムを発表する。 【グループ】	★制作した学年エンブレムの形や色、象徴させた内容などについてグループのメンバーへ発表するとともに、他者の発表を共感的に傾聴している。	★形や色に象徴させた内容をじっくりと味わわせるために、学習プリントに作者の表現意図への共感などを含めたメモを取りながら記入させる。		
<p style="text-align: center;">&lt;重点を置いた美術科の資質・能力を発揮している姿&gt;</p> <p style="text-align: center;">★学年のイメージを象徴するエンブレムの形や色彩の工夫点について、客観的視点に立ちながらも学年に所属する一員として共感的に聞き、感想を述べ合っている。</p>				
3. 代表者の発表を聞く。 【全体】	・作品の解説を聞き、自分の感じ方、見方、考え方を持って鑑賞している。	・形や色彩についてしっかり鑑賞できるように、作品を拡大表示しながら数名に発表させる。		
4. 題材を終えた感想を記入する。 【個】	・題材を振り返り、造形的視点を持って、制作活動や鑑賞会を踏まえた感想を記述している。	・自分たちが形や色彩に込めた思いや願いについてしっかり考えさせるために、制作中の振り返りと、本時の鑑賞活動で学んだ事を総合的にまとめさせる。		

### (3). 評価とその方法

作者がエンブレムの形や色彩に象徴させた内容についてじっくりと味わい、構成美の要素などの造形的視点を持って感想をまとめることができているか、活動の様子と鑑賞プリントの記入内容から評価する。

## 6. 題材を終えた成果と課題

### (1) 本題材で付けさせたい資質・能力に関わって

- 自分たちで決めた学年名の意味と、学年を構成する自分たちの思いや願いから発想し、「学年エンブレム」として表現していく活動は、生徒たちの意欲を喚起し、題材に取り組む意欲が非常に高かった。その分、真剣に悩んでいる姿や、色や形といった造形要素を用いて表現する場面での試行錯誤が数多く行われていた。
- エンブレムに象徴させたい内容を吟味する際には、自分たちの学年の現状や将来に対する多様な思いを、発想・構想段階に言語化することを通して表出させることができた。また、留意点の④「多くの人に共感され、受け入れられるものであること」

という視点に関しては、これまでの小学校図画工作や中学校美術の授業では扱っていないものであり、今後のデザイン分野の学習に資する題材となった。

○固有の形のないイメージを具体化するにあたり、抽象的なイメージを特定の色や形に変換して行くことで、生徒それぞれが〔共通事項〕の造形的な視点を意識した質の高い制作に結びつけることができた。

○作品を鑑賞する場面では、作品中の色や形がもたらすイメージと、作者が学年エンブレムとして伝えたい内容や象徴させたい事柄を繋げながら味わうことができていた。また、他者の作品で使用されている色や形から多様な造形的視点を学び、自らの新たな課題や、その視点を次の題材で活用したい等の意欲を高めることができた。

▲数学科で平面図形を学習した後に取り組んだ題材であったが、エンブレムとしての基本形や、形や色が人に感じさせるイメージについて、もう少し整理してから取り組ませることも考えていかなければならない。

▲今年度の学年名は抽象的な音や状態を表す熟語だったため、「文字」の扱いについては本題材のエンブレム制作では指定しなかった。今後は、題材の扱い方によって制限する必要もあると感じた。

## (2) 生徒作品【学年名：玲瓏（れいろう）】

